

# ドレッサージュホースに育てよう!

オースミレブンが北原さんの元に来てから間もなく1年。以前、JRA 札幌競馬場でこの馬を担当し、その才能を見抜いて愛馬を北原さんに託した間裕（はざま ゆう）さんが、久しぶりにオースミレブンに騎乗。著しい変化に驚いたという間さんと北原さんに、オースミレブンについて語っていただきました。



北原：1年ぶりに乗って、どうだった？

間：すごく軽かったです。もともと重い馬ではなかったけれど、今日は脚扶助に対するリアクションがまったく違いました。以前使っていた脚扶助の5分の1も使えない感じでした。

北原：動ける体勢になってきたからだと思う。脚を使っても動かないとか、ある程度強めに使わなくてはならないというのは、馬の口向きや透過性という総合的なバランスが調っていないからだと思うんだよね。透過性が出てくると、総合的なバランスも良くなって、馬が動きやすくなる。だから、人間が「行け! 行け!」って指示を出さなくてもよくなる。後駆で生み出されるパワーがしっかり通って、馬が軽くなるっていうイメージだね。全日本 Part II の前、7月頃から馬自身が体の使い方がわかってきた。馬の中でいろいろなことが機能し始めた。こちらが馬に求めているのは、パワーを溜めることだし、それが馬体に充滿して動くこと。その持って行きどころを馬がわかってきて、フィジカルも対応できるようになってきているのを感じている。もらったのは去年の12月だから、そうなるまでに半年くらいかかった。その間トレーニングしてきたことが馬の体に備わってきて、それによってペースの動きが変わってきて、それが評価として全日本 Part II の結果に表れたんだと思う。

間：僕が札幌で乗っていた時も動いてはいたけれど、低く長い状態の中での動きでした。アップヒル体勢をとらせるとトモがちょこちょこ歩きになっていたのですが、今日はそれがなかったです。違う馬に乗っているみたいでした。以前は、この体勢まで起こせなかった。動かないから起こせないということですね。

北原：起きないから動かないっていうのもある。どっちが先か?っていう話だけだね。その悪循環を断ち切って、好循環に入れるかどうか。どこで断ち切るか。オースミに関しては、《起こす》というアプローチをして、その結果動けるようになってきた。間が言うように、馬としては長いし、伸びている。でも、それではパワーが溜まってこない。それを改善した。俺が乗っているところを見て、「膝が上がってきましたね」って言ったよね。もともと肩や関節の動きはいいものを持っていたけれど、以前は肩から下が振り子のように動いていた。今は、トモが入ってきて前駆が軽くなったことで、肩を持ち上げるような動きができるようになって、それが膝が上がってきたことにつながっているんだよね。

間：起きてこないとも肩も上がってこないし、後ろに乗っていないと前も軽くないですね。

北原：駢歩はどうだった？

間：あの体勢で運動できるのが不思議。以前は低い体勢の中でしか駢歩ができなかったのに、今は起きている中で駢歩ができる。全然違います。

北原：駢歩は前から苦労していたよね。

間：特に競技の時は、馬に強く指示を出せないから伸びた状態でした。

北原：低くなって、前に持っていく感じは今でも残っているんだよね。駢歩については、この連載でも3回目にふれたけど、すごく乗りにくかった。特に経路を回るときには、伸びているし、いいバランスも保てない。競技を経験したことで、



本番のアリーナの中では鞭を使われないうことを馬がわかっているせいもあると思う。実はこの間の試合でもその傾向を見せたんだ。競技中にそうさせないための改善は必要だけど、トレーニングではだいぶ良くなって、馬体が収縮してきた感じ。これは、いきなり駈歩を改善したわけじゃなくて、常歩から変えてきた結果だね。

問：札幌で乗ってもらった時は、初日はほぼ常歩だけで終わっていましたよね。北原さんが常歩で求めることが、オースミにはできていなかったということですよ。

北原：常歩でできることを、常歩でやったっていう感じかな。駈歩につながることを、常歩でやっていたというか。馬自身が、「この体勢をとれば楽なんだ」と理解して、行き場がわかってくると変化が表れる。そのきっかけをつくってやれるかどうかのポイントだと思う。

問：今日乗って、それを実感しました。馬がこちらの扶助に対してちゃんとしたアクションを起こしてくれた。札幌でも北原さんに見てもらって、アドバイスをもらったことを、自分なりにトレーニングに取り入れて、少しずつ向上している手応えはありました。でも今日は、求めていた動きがこれだったんだ、という明確なゴールが見えた気がします。ゴールがはっきりわかったことで、トレーニングの方向性も明確になりました。とても勉強になりました。

北原：ここまで比較的順調にきたけれど、この先に進もうとするとサラブレッドの難しい面が出てくるのかな。上のクラスの運動をやると思った時、この馬は後ろが軽い。つまり沈下しにくい。まずはセントジョージを正しく踏めるサラブレッドにしないと。ピルエットはサラブレッドには難しい運動で、得意な馬もいるけど、オースミに関してはトモが沈んで馬体が丸くなるというのは難しい。それにどこまで対応できるか。得意な馬は天然でできるけど、オースミは天然でできる状態にはないから、トレーニングを工夫して馬に納得してもらって進めていかないと難しいだろうな。前途洋々というわけじゃないよね。性格も関係してくるしね。我慢強いのか、ある程度受け入れる身体能力と精神力があるかって言うと、あいつは我慢しない。鞭に対しても過敏なところがある。そういうマイナス面をプラスに変えていくようにしてはならないと思っている。ケンカしたら絶対に負けるから、それをうまくやれるかどうかのカギだね。性格的にはわからないところがあるよね。

問：あれだけ前進気勢があるサラブレッドだと、ホットになってコントロールできない馬が多いけれど、オースミには微妙な冷静さがあるんですよ。

北原：そうそう、変な落ち着きがある。あの馬なりのこだわりがあるんだろうね。これは絶対にいやだけど、それは別にいいよっていう。ただ、それがこっちにはわからない(笑)。そう言えば、競技で脱走したことがあるんだよね？

問：ノーザンホースパークの試合に連れて行った時です。当日の朝、調子を確認するために15分くらい乗って、大丈夫そうだったので馬房に戻って馬装をはずしたら、扉の隙間からバーンと飛び出したんです。競走馬のトレーニングコースの奥まで走って行って、なかなか見つかりませんでした。幸い日曜日で競走馬が運動していなかったから良かったんですけど、競走馬にケガでもさせたらどうしようと思ってほとんど半泣きでした(笑)。

北原：その日の試合はどうしたの？

問：4~5km 走り回っちゃったから「終わったな」と思って、ダメだったら棄権するつもりで出してみたら、まったくケロツとしていたので、普通に出場しました。

北原：その時に思う存分走り回ったおかげで、今は競技場に行っても落ちて着いている。そこで発散しきったからね(笑)。全日本 Part I は初めて三木ホースランドパークに連れて行くけれど、たぶん大丈夫だと思う。今度は、Part II と違って外産馬と一緒に競技だけど、この馬の良さを出せるように頑張らないとな。

問：内産馬選手権で勝てると思って北原さんに託したので、まずはそれを実現してください。その先も行けるころまで行ってほしいと思っています。

北原：どの馬でもグランプリに行ける可能性を秘めていると思ってやっているけど、サラブレッドでそこまでいくのは簡単じゃないんだよ、わかってるだろ(笑)。

問：北原さんなら大丈夫です!(笑)。

